

分水商工会景況調査報告書

組織番号	0030
商工会名	分水商工会
報告者名	加藤 幹弥

1. 調査要領

(1) 調査対象

ア 対象地区 分水商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
ウ 回答企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

平成28年7月～平成28年12月
(調査時点 平成28年12月1日)

(3) 調査方法

経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	10	33.3%	10	33.3%
建設業	6	20.0%	6	20.0%
卸・小売業	7	23.3%	7	23.3%
サービス業	7	23.3%	7	23.3%
合計	30	100.0%	30	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

依然、商業・サービス関連の業種では、販売競争の激化により、収益の減少が続き、今後の見通しも明るくはないとの判断が多い。製造業や製造業関連業種では、新たな販路開拓や、設備の導入により収益確保を模索する事業所が多いが、見通しは慎重な回答が目立った。

【後継者の状況】

後継者の有無が事業継続意欲に影響し、後継者なしとの回答の事業所では、現状維持や、廃業を検討する事業所も多くなってきている。

後継者 あり	9事業所	30.0%
後継者 なし	21事業所	70.0%

【売上高】

調査期間内では、前期比で増加との回答が増加する結果となったが、売上の維持が目的となり、収益確保が難しくなっている。

また、今後の見通しは慎重な意見が多かったが、一部の事業所では、新たな販路開拓や、新サービスを模索し、増加見通しであった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
12	3	15	20	2	8	8	8	14

【採算】

現状は仕入値の増加が感じられないため、採算については悪化の回答が減少したしかし、今後の見通しについては、売上の減少や、仕入値の増加など不安要素がおおく、見通しは難しい状況であった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
9	8	13	13	9	8	6	13	11

【仕入単価】

どの事業所も、今後について慎重な見方をしているためか、仕入単価の動きは見られなかった。

一部製造業では、原価の上昇がみられ、今後の収益確保が問題となっていた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
3	20	7	5	20	5	5	22	3

【販売（客）単価】

収益よりも、売り上げの確保に努め、客単価も現状維持の回答が目立った。

今後についても、値上げには踏み切れず、現状を維持したいとの回答が多かった。

仕入原価の上昇を回答した事業所でも、価格転嫁できず、収益の悪化要因となっていた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
3	20	7	5	21	4	1	23	6

【資金繰り】

事業活動が現状維持傾向であるため、資金繰りについても動きは少なかった。商業・サービス関連では、販路の開拓が難しく、収益確保が困難となり、悪化が見られ、製造・建築関連では、期間内では好転が見られたが、見通しは慎重な回答が見られた。

前年同期比

好転	不変	悪化
6	17	7

前期比

好転	不変	悪化
7	18	5

今後の見通し

好転	不変	悪化
2	22	6

【雇用動向】

今後の事業展開を模索する中で、慎重な回答が目立った。収益の増加した事業所でも、雇用増までは検討していないとの意見であった。

前年同期比

増加	不変	減少
1	28	1

前期比

増加	不変	減少
1	29	0

今後の見通し

増加	不変	減少
1	29	0

【景況判断】

製造・建設関連で好転の兆しがあったものの、商業・サービス関連では依然、悪化が続いている。今後についても悪化が続くとみられ、厳しい状況は変わっていない見通しであった。

前年同期比

好転	不変	悪化
9	5	16

前期比

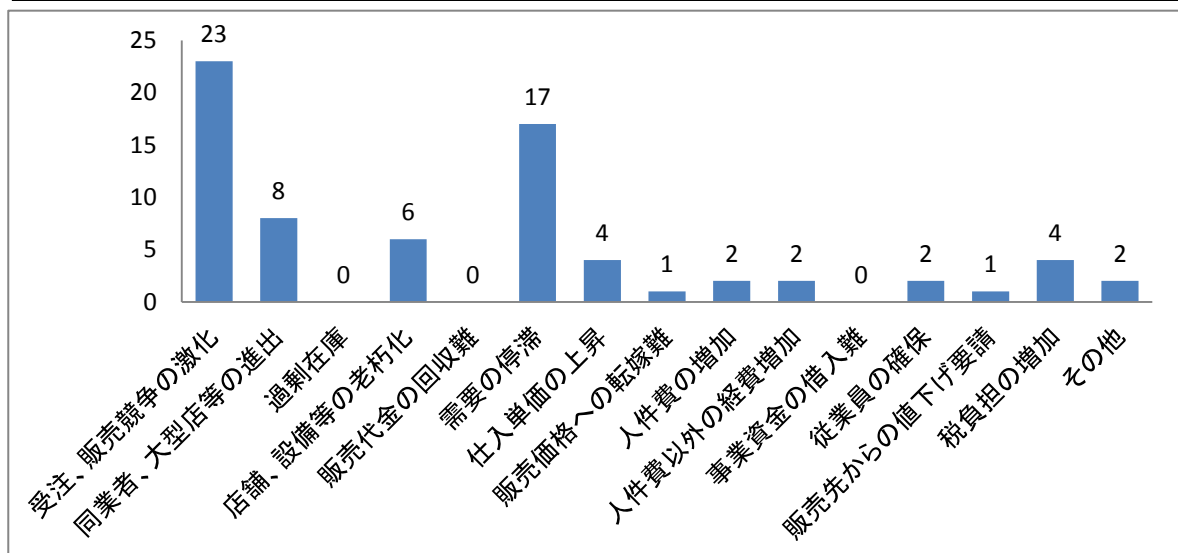
好転	不変	悪化
12	8	10

今後の見通し

好転	不変	悪化
8	9	13

【経営上の問題点】

同業者による競合が多く、販売競争の激化により、売り上げの確保が一番の問題となっており、需要の停滞感も感じられる結果となった。そのため、設備投資への余裕もなく、打開策の見えない結果であった。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

一部の製造業では、設備投資等の動きもみられ、新たな販路開拓を行い増収を目指しているが、仕入れコストの増加など、収益確保が難しくなっている。

特に小規模の製造業では、新たな販路を模索することもできず、減収が続いており、廃業という声も出るようになってしまった。

また、販路開拓や事業の見直しにより、順調な動きを見せる事業所も、仕入れコストの増加や、従業員不足により、思うように収益を上げることのできない事業所もあり、見通しは不透明であった。

(2) 建設業

建築関連では、住宅の新築や改築の需要もあり、回復の兆しが見られたが、総合建設関連では、公共工事の鈍化があり、好転とまでは至っていない状況であった。

今後の見通しでは、建築関連では、依然ハウスメーカー等の競合による受注難や価格競争による利益確保などの問題が多いが、新たな工法や、アフターサービスなどの見直しにより、好調を維持している事業所も多いことから、需要はあるため、営業努力により、受注増加へつなげてほしい。

(3) 卸・小売業

他の地域同様、当地区においても商業の衰退は止まらず、同業者や大型店との競合により、思うように収益を確保することができていない。

また、高齢化による来店客数の減少と、インターネットや物流の発展により、若年層の囲い込みも難しく、依然、厳しい状況が続いている。

一部では、仕入れてそのまま販売では、利幅が取れず、若干の加工や、新たなサービスを模索し、活路を見出す動きもみられた。

(4) サービス業

卸・小売業同様に競合が多く、売上に波が出来てしまい、思うような事業活動ができない状況が続いている。

飲食関連では、インターネットにより、手軽に情報を収集できることから、他地域への流出が目立ち、小売同様、若年層の囲い込みが難しくなっている。

現在の事業活動を維持しつつ、新たな顧客を確保するため、サービスや、商品を改善し、販路開拓を目指す動きもみられた

(様式③)

No.

景況調査ヒアリングシート（平成28年度）

調査対象期間 平成28年7月～12月

（調査時点 平成28年12月1日）

商工会名	商工会	担当職員名	
企業の概要	業種	1：製造 2：建設 3：卸・小売業 4：サービス他	
	従業員数	1：0人 2：1人～2人 3：3人～5人 4：6人～20人 5：20人超	
	企業区分	1：小規模事業者 2：小規模事業者以外	
	後継者の有無	1：有 2：無	

（1）貴社の状況についてお答えください。（該当する番号に○を付してください。）

	前年同期（H27年7～12月）と比較して	前期（H28年1月～6月）と比較して	今期（H28年7～12月）と比較した来期（H29年1～6月）の見通し
売上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算（経常利益）	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕入単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売（客）単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資金繰り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇用動向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景況判断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

（2）貴社の経営上の問題点（下記より上位3つまでを選び、○を付してください。）

- ①受注、販売競争の激化 ②同業者、大型店等の進出 ③過剰在庫
④店舗、設備等の老朽化 ⑤販売代金の回収難 ⑥需要の停滞
⑦仕入単価の上昇 ⑧販売価格への転嫁難 ⑨人件費の増加
⑩人件費以外の経費増加 ⑪事業資金の借入難 ⑫従業員の確保
⑬販売先からの値下げ要請 ⑭税負担の増加
⑮その他（ ）

（3）今後の事業・経営において強化したい点（設備投資・販路開拓等）

--